

電気ショッカーボートを用いた駆除によるオオクチバス捕獲状況の変化

臼杵 崇広・関 慎介（水産課）

1. 目的

電気ショッカーボートによる駆除の効果把握するため、南湖の各区間でオオクチバス（以下、バスという。）の捕獲状況を調査した。

2. 方法

調査は電気ショッカーボートによる駆除が実施された平成26年4月22日～7月4日、同年10月8日～11月18日、平成27年2月27日～3月23日に行い、事業で捕獲されたバスを標本とした。調査区間は南湖西岸8区間、東岸6区間とした（図1）。区間ごとに通電時間あたりのバスの捕獲重量（以下、重量CPUEという。）を調べ、時期ごとの南湖全体の数値を過年度の結果と比較した。また、一部区間においてバスの体長組成および胃内容物を調査した。

3. 結果

南湖全体の時期ごとの重量CPUEは4、5月では89.3kg/時間（前年度比84.1%）、6、7月では41.1kg/時間（同48.4%）、10、11月では33.7kg/時間（同73.2%）、2、3月では26.0kg/時間（同43.4%）といずれの時期も過年度を大きく下回った（図2）。区間Bでは重量CPUEは4～5月には133.9kg/時間と昨年度と同様に最も多かったが6～7月には急減した（図1）。6～7月では区間Eで106.3kg/時間と多かった。10～11月には区間C、Lでやや多かったが、他の区間と大きな差はなかった。産卵期前の2～3月は過年度には多く捕獲される区間があったが今年度はどの区間も少なかった。

バスの体長組成の推移から2歳以上魚と考えられる体長24cm以上魚の減少が読み取れ（図3）、電気ショッカーボートによる産卵期を中心とした集中的なバスの駆除が有効であると考えられた。

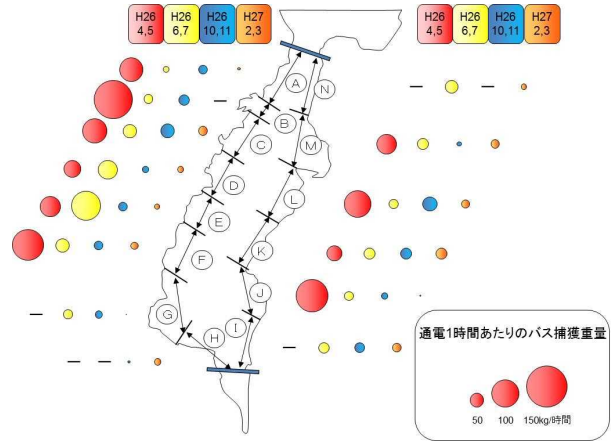


図1 琵琶湖南湖の調査区間および各区間における通電時間あたりのオオクチバス捕獲重量

*ーは未実施あるいは区間としての算出が不能な区間。

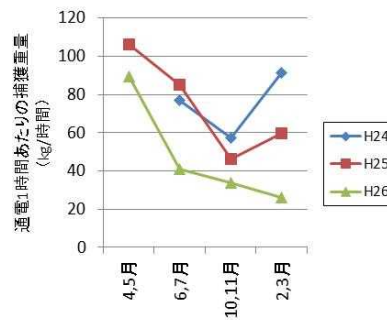


図2 通電時間あたりのオオクチバス捕獲重量の推移

*平成24年の実施は6月以降。

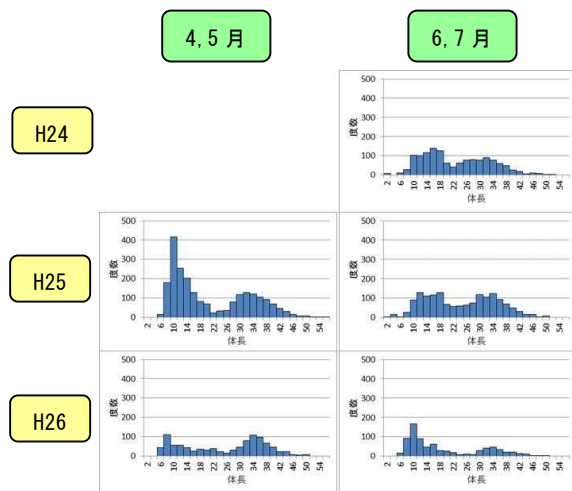


図3 捕獲されたオオクチバスの体長組成の推移